

心豊かな世代が育つ 童話の里づくり

410

—シリーズー あなたの人権・わたしの人権

一人ひとりを大切にする

「ももたろう主義」

塚脇小学校4年

秋好 優一

みなさんは、玖珠町がどうして童話の里とよばれているか、知っていますか。

玖珠町には、久留島武彦という有名な人がいました。久留島武彦先生は、小さいころから、お話を大好きでした。自分より小さい子どもを集めて、お話を聞かせることが得意でした。

それから色々な人の出会いがあり、子どもやお話についてたくさん勉強したそうです。

久留島武彦先生は、多くの子どもたちのお世話をした、玖珠町のすばらしい人です。

記念館に行きました。

そこで、館長のキム・ソンヨンさんやしせつの方から久留島武彦先生について、色々なことを教えていただきました。

ぼくが、見学した中でいちばん心にのこったことは、「ももたろう主義」のお話です。

「ももたろう主義」は、「ちがうもののそんざいを受け入れ、たがいにたすけあっていこう」という考え方です。

ぼくは、この考えを聞いて、すごく大切だなど感じました。

ぼくは、少年野球を習っています。同じチームの友だちは、一人ひとりちがいます。身長が高い人もいれば、パワーのある人もいます。走るのが速い人も、声かけが上手な人もいます。

反対に、守りが苦手な人、バッティングが苦手な人、きんちょうして自分の力が出せない人もいます。

人それぞれがうどんはあるけれど、そんな中で、協力して、助け合っていくのがチームだと思います。

ぼくは、なянでいる友だちや苦手なことのある友だち、ミスした友だちを助けるそんざいになりたいです。

ぼくのクラスは、二十八人です。一人ひとり得意なことや苦手なことがあります。

たとえば、サッカーが上手な人、絵が得意な人、きょうりゅうのことをたくさん知っている人がいます。

反対に、外で遊ぶのが苦手な人、プールがきらいな人、発表が苦手な人もいます。

ぼくたちのクラスでは、帰りの会で、「今日のきらり」というみんなのいいとこ見つけをしています。

クラスの全員が気もちよく「せるよう」に、その人のいいところをたくさん伝える取り組みです。

同じクラスの友だちとして、相手のよさを見つけることで、全員が楽しく気持ちよくすごせるクラスをめざしています。

時には、友だちとけんかをしたり、いやなことがあります。

しかし、ぼくは、友だちのいやなところではなく、きらりとかがやく

ところを見つけられる人になりたいです。

ぼくは、久留島武彦先生が大切にした「ももたろう主義」を、「これから大事にしていきたいと思います。色々な人がいつしょにすゞす野球チームやクラスの中で、友だちを大切にして、助けることができる人になりたいです。

この人権作文について、意見や感想、激励など、お寄せください。また、みんなの投稿もお待ちしています。



社会教育課「あなたの人権・わたしの
人権」までお届けください。

